

地域の障がい児・者支援者研修会 報告

日 時 2016 年 11月22日（火） 19時15分～20時50分

会 場 育徳園保育所 3階 幸分ホール 阿倍野区阪南町 5－1 2－5

テーマ 困っている子どもの行動を受容するには！～子どもの気持ちに理解を深める～

講 師 梅花女子大学 伊丹 昌一 教授

参加者 43名 大地協会員施設関係 34名 会員外 9名

●伊丹先生のお話し要約

・支援者に必要なことは子どもの行動分析が大事である。

伊丹先生の過去の体験談

強度行動障害の男の子とキャンプに行った話。
皮膚を噛みちぎる、目を潰すなどの行動をする。
母親は自分の子が人間とは思えないという。

伊丹先生はその子とマンツーマンでキャンプに行く。
挨拶をしてすぐに腕を力いっぱいにつかまれる。
伊丹先生→微動作しないでじっとその子を見つめる。

この子は〇〇障害があるから大変だと思うと本当に大変になる。
大事なのは子どもを信じること、毅然とした態度をとることで関係性を作ることができた。

子どもの気になる行動の例

- 1・外に行くと、勝手にどこかにいってしまう
 - 2・相手の感情を逆撫でしてしまう
 - 3・大きな音を嫌がる
 - 4・絵本などの読み聞かせに興味を示さない
 - 5・折り紙やパズル、塗り絵などが苦手で癇癪を起こす
 - 6・知らないところにいくのを嫌がる
 - 7・友だちとうまく遊べなくてすぐに叩いたりする
- など
〔障がいがある、なし関係ない〕

◎子どもが困っていることに気がつくことが重要である。

気づきの大切さ

診断の有無に関わらず、子どもの困りごとに気づき、子どもを正しく理解し、その子どもにあった支援を行うことが大切である。

一見すればどの子にも見られるような行動かもしれませんが、本人の困った時のサインかもしれない。早期支援は保育者が子どもの困りごとに気づくことから始まる。

困っていることの原因は？

年齢差、不器用さ、対人関係力の弱さ、コミュニケーションの弱さ、知的な遅れ、感覚のトラブル。
これらの中には医療機関等での相談が必要なケースもあるが、まずは保育者が困っている状態に気づいてあげることが大切です。年齢が低い方が分かりやすい傾向がある。

・子どもの行動はそれだけが突然起こるものではない。

子どもの行動について『なぜ?』『どうして?』と感じた時はいつでも以下のように考えてみる。

① 行動の手がかりやきっかけ→ ② 子どもの行動→ ③ 行動の後の対応

例、先生が他児と話し始めると、部屋から飛び出してしまうAがいる。仕方なく先生はAを追い掛ける。
Aはニヤニヤと笑っている。

- | | | |
|---|--------|--------------------------|
| ① | きっかけ | 先生が別の児童と話をしている時 |
| ② | 子どもの行動 | 教室から出ていく |
| ③ | 結果 | 追いかける→先生に注目されていると感じる、楽しい |

伊丹先生の場合、
良い行動に注目をする。
部屋から出て行く→捕まえる（部屋から出るのは良い行動ではないから、この時は何も言わない。）
→一緒に部屋に入る（この時に入ったことを褒める。）

言葉は具体的に話す方が伝わる。つい使ってしまう単語で伝わりくい言葉『きちんと』『ちゃんと』などでは抽象的で伝わらない。

例、勉強を始めると、ブランコで遊びたいと強く要求するB。その勢いに負け時折仕方なくブランコで遊ぶことを容認してしまう。

- | | | |
|---|--------|-------------------|
| ① | きっかけ | 勉強しているとき |
| ② | 子どもの行動 | ブランコに乗りたいと強く要求。 |
| ③ | 結果 | 時々勢いに負けてブランコで遊ばせる |

伊丹先生の場合
勉強場で。この問題を3つできたらブランコしよか！など 要求を目標にする。

行動の捉え方
どんな時に起こっているのか。
行動の直後にはどんな出来事があるか。
このポイントが大切である。

行動の意味

- | | |
|-----------|------------|
| 1 注目要求 | 見て見て |
| 2 物や活動の要求 | ほしい！ほしい！ |
| 3 感覚要求 | 指吸いなど気持ちいい |
| 4 回避、逃避要求 | したくないよ |



・事例をもとにグループワークを行う

コウジくん 自閉スペクトラム症+知的発達症

簡単な名詞は使うが、周りにはコウジくんの意図することが伝わらない

姉がおり、けんかをすることが多い。

母親はパート勤務、コウジくんが学校から帰る頃には家にいる。

姉は母のそばで宿題を行い、コウジくんは母と姉の横に座り大好きなゲームをする。姉の宿題が終われば姉の見たテレビを2人で見る。母はキッチンで晩御飯の支度を始めると、コウジくんは姉の髪をひっぱるなどのケンカが始まる。仕方なく母親はコウジくんを叱り、姉をなだめる。落ち着くとキッチンへ戻る。するとまた同じことが起こる。

伊丹先生の場合

まず本人が何を望んでいるのかを知ること。そのあとで方法を考える。

- | | |
|----------|----------|
| ① きっかけ | 母親が離れると |
| ② 子どもの行動 | 姉の髪をひっぱる |
| ③ 結果 | 母親が現れる |

コウジくんの気持ちは、もっとかまってほしいのではないかと考えられる。

何度も繰り返し行われる場合は償うこともする必要がある。例えば償いとして20秒白い壁に向かわす。

これは、相手の自由な時間を20秒奪うという意味である。これは虐待ではない。

グループワークでは、様々な考えが出てきたが、その一つ一つが正解であると伊丹先生は考えている。行動分析には正解がない。各グループが考えたことが正解です。自分たちの力を信じて考えて行うことが支援である。

効果的な援助

- 1 言語プロント
- 2 資格プロント
- 3 モデリング
- 4 身体プロント
(一緒にフェイディング)
- 1 プロント内フェイディング
- 2 階層フェイディング〔援助漸減方 漸増方〕
- 3 タイムディレイ 時間遅延方
ギリギリまで援助を待つ

伝え上手のポイント

- 1、具体的に
- 2、前もって
- 3、注意を引いてから
- 4、短く1つずつ
- 5、わかりやすく
- 6、絵や写真を使って

・子どもたちの笑顔のために

自分で考えて選んだり、お母さんや先生に褒められたり楽しい関わりのあることが必要である。簡単な1つの原則を用いれば全てがうまくいく訳でもない。1人の子どものためにニーズに合わせて丁寧に1つずつ粘り強く取り組む事が必要である。

みなさんにはリラックス法がありますか？アロマ、漫画、釣りなど、心が和む瞬間を持つようにしよう。過ぎ去ったことを悔やんでばかりいたり、起こりもしない未来を心配しすぎたりするのはやめて、今を大切にしよう。

大人の怒っている顔の向こうには子どもの笑顔はない。子ども本人ばかりでなく、子どもを取り巻く環境を調整することによって、親や先生が期待する行動をみずからできる子どもにしよう。今日から少しずつ無理なくやろう。行き詰まったらいつでも相談して。

自分も褒めて！お世話になった人への感謝を忘れない。自分に好意を持ってくれていると感じると自分も相手に好意を持つ。笑顔が見えない子どもがいるので、まず支援者が笑顔、笑顔、笑顔。

●研修会アンケート

回収 28/43 (とても満足 26 満足 2 やや不満 0 不満 0)

アンケートからは満足しているという回答が得られ、不満はなかった。

感想の一部分

- ・笑顔の大事さを知ることができて改めて実感することができました。信頼すること。その気持ちを大切に現場にでたいと思います。ありがとうございました。
- ・わかりやすいお話しで聞いていて楽しくもあり、とても勉強になりました。問題行動の前後を考え、それにあった支援をできるようにがんばっていきたいと思います。
- ・まだまだ自分のことでいっぱいの方が多く、大変な子、と思ってしまうことがあるのですが、そんな時こそ笑顔で余裕をもって子どもたちと関わっていききたいと思いました。笑顔の力はすごいなあと改めて感じました。

などなど多数のご感想いただきました。

●講師の伊丹先生からアンケートでの質問に後日回答をいただきました。以下ご参考にしてください。

先日はお世話になりありがとうございました。皆さん熱心で心地よかったです。

Q1：注目要求のため、うそをつくことが多い子どもがいます、大人へのうそや支援員へのうそはある程度信じているのですが子ども同士でもうそをつき、周りから信用してもらえなかったり、注目要求の方法が下手で、まわりから支えられる状態になっています。なんとか間にはいりとりもっているのですが、どのようにしていけば、きちんとコミュニケーションがとれるようになるのかなと悩んでいます。
A⇒注目要求と分かっているならば、正しい行動を教え、それで注目を得られるように指導してください。

Q2：罰と償いの違いはどこにあるのでしょうか？

⇒直接的に嫌なものや事象を与えるのが罰（正の弱化）で、子どもが得ている何かを取り上げることを償い（負の弱化）といいます。子どもが自由にできる時間を少し取り上げる方法を紹介しました。

Q3：行いたい支援があっても環境や状況（時間、人手など）によって難しいこともあるのではないのでしょうか？

⇒すべての支援がいつでもできればすぐに子どもは変わりますが、そうはうまくいかないものですね。

Q4：支援者と、子ども（利用者）との相性、また支援者のかかわり（口調や態度などの言動が、その子どもにとってとても嫌だったり不快に、思うが支援者自身はそれに気づいていない、自覚がない）によって子どもが調子を崩してしまっている状況が、続く場合、それを、支援者に伝え、改めていくべきかをとても頭を悩ませることがあるのですが（同じ支援者、また管理者として）助言いただければ嬉しいです。
⇒お互いの幸せのためにも、勇気をもって支援者をかえてやってください。

Q5：笑顔での保育の大切さを改めて感じました。しかし、いけないことをした時はその状況に合った表情で伝えていいのですよね…？

⇒いけないことをしたときは真顔で叱り、そのあとできたことを笑顔でほめてください。

Q6：支援のいるお子さんへ関わりの中で、集団に入って活動する難しさをやはり感じます。

⇒集団の中では個に応じた支援と全体に対する支援ユニバーサルデザインが必要です。ユニバーサルデザインは話し出すと1時間はかかります。

Q7：3才児クラスで今年度から入園してきた子どもがいるのですがお友だちの中にはいることがなかなかできず、少し周りのお友だちとスタートが遅れたりすると困っていることが多くあります。お母さんも神経質なためその困っているエピソードなども話してはいるものの、その困り事に目を向けてません？どのようにお母さんと、関わっていけばよいのか…。と、感じています。

⇒保護者支援は非常に難しい課題です。まずは傾聴で保護者の気持ちを受容・共感し、そのあとで成功体験を増やすかわりの中でマイナスの視点も伝えていって下さい。